

学びの 広場

地域で学び、活動する
皆さんを応援します
北秋田市教育委員会

- 公民館活動 ●生涯学習
- 文化振興 ●学校 ●スポーツ



「震災で合川小学校が避難所となったら…」 ～北秋田市防災キャンプ推進事業～

大地震を想定した防災キャンプが、9月18日、19日の2日間、合川小学校で行われ、5・6年生のほか、合川中学校の生徒や保護者、地域の方々が参加しました。

キャンプ中は、日本赤十字社救急法指導員による三角巾を用いた応急手当や、日赤奉仕団、合川婦人会の指導による炊き出しのほか、中学生が小学生のサポートをしながらダンボール間仕切り設営を行い、災害時に不可欠な地域の連携を再確認しました。

また、市保健師による防災教室の講話では、本市

にも起こりうる災害の怖さや、防災意識の重要性、自分の命は自分で守ることの大切さを学びました。



▲非常用の炊き出しご飯と豚汁を食べる小中学生

「蜜がたっぷりのりんごが採れたよ！」 ～放課後子ども教室「栄いきいきタイム」～

栄いきいきタイムの児童34人が、10月17日にりんご狩りを体験しました。

放課後子ども教室「いきいきタイム」は、市内全児童を対象として、地域ボランティアの指導のもと、体験活動を中心に週1回ほど開催しており、クッキングや工作、野外活動などを通じて地域の方々と楽しく交流活動を行っています。

この日、バスでりんご農園に移動した児童たちは、農園の方に見守られながら脚立に上がり、片手では持てないほどの大きなりんごを、「妹におみやげで

持って行きたい」「お母さんにも見せたい」などと語りながら1個1個丁寧に収穫しました。



▲秋晴れの中、りんご狩りを楽しむ児童たち

「自分の学びを地域のために」

～高鷹大学学園祭～

高鷹大学の学園祭が、10月16日に文化会館で行われ、日ごろの学びの成果を発表しました。

高鷹大学には、今年度213人が在籍し、年4回の全体講座のほか、月1回各クラブで活動しており、11クラブの中から、今年度はレクダンスクラブ、歩こうクラブ、詩吟クラブ、歌謡クラブ、写真クラブ、習字クラブの6クラブが発表しました。

このうち習字クラブは、金子みすずの詩「大漁」を書道パフォーマンスで披露。民謡「秋田音頭」に合わせながら力強く筆を走らせました。

また、特別公演では、鷹巣婦人会による「北秋田交通安全音頭」のほか、合唱などが披露されました。



▲習字クラブによる力強い書道パフォーマンス

おやかたさ集まるべ講座

開 申 事務局 長岐賢一

☎090・6101・8906
FAX0186・66・2513

■かまくら「こんごろう」の謎

歴史上のヒーロー鎌倉権五郎景正と葛黒の「こんごろう」の関係を探ります。入場無料です。

日時 11月14日(土)16時～
会場 葛黒林業センター(七日市葛黒)
ガイド 佐藤俊晃氏
主催 おさるべ元氣くらぶ

もりよし文化交流会

開 申 森吉公民館 ☎72・3259

森吉地区の文化交流会を開催します。皆さんのご来場をお待ちしています。

展示日時 11月15日(日)
10時～15時
展示期間 11月15日(日)～12月末
場所 森吉コミュニティセンター
内容 各団体のステージ発表、作品展示、食堂など



阿仁文化交流のつどい

開 申 阿仁公民館 ☎82・2220

『ともに学びあい地域の輪を広げよう』をテーマに、阿仁地区の文化交流のつどいを開催します。皆さんのご来場をお待ちしています。

展示日時 11月8日(日) 10時～15時

展示期間

11月7日(土)、8日(日)

9時～17時(8日は15時)

場所 阿仁ふるさと文化センター

内容 作品展示、ステージ発表

秋田考古学協会

設立60周年記念研究会

開 申 秋田考古学協会事務局 高橋学

☎090・1491・7384

■十和田火山噴火1100年

「火山災害と古代社会」

日時 11月28日(土)13時～16時30分
会場 北秋田市文化会館

基調講演 「火山地質学者が語る十和田火山噴火(仮題)」

講師 秋田大学教授 林信太郎氏
報告 「胡桃館遺跡からみる米代川流域の古代社会(仮題)」

講師 北秋田市教育委員会
榎本剛治 主査

特別報告 「開聞岳噴火と地域社会(仮題)」

講師 鷹野光行氏(東北歴史博物館館長・前お茶の水女子大学教授)
※入場無料です。ぜひご来場ください。

今月のおすすめの本を紹介!

開 申 鷹巣図書館 ☎62・3311

『虫の虫』 (養老孟司 著)
『砂の街路図』(佐々木讓 著)
『小さな盆栽づくり』(松井孝 監修)
『負けるもんか 正義のセ』 (阿川佐和子 著)

ふるさとの文化財

92

北秋田市 有形文化財(彫刻)

○「周防大明神像」

◇所在地 北秋田市道城上堀2

◇管理者 道城自治会

合川地区道城集落の鹿島神社境内にある祠に、稲荷神、唐松神とともに安置されている石像です。近くの畑から発見されたものと言われ、高さは32cm。朝鮮王国風の貴族の服装をした石像が、なぜここにあるのでしょうか。

◇「周防国」

石像裏面の「周防」から、今の中国地方の山口県下松市との関係が推測され、同市に確認したところ「古代百済国の聖明王第三王子琳聖太子」の像であることが判明したとのことでした。

琳聖太子は父王の命に従って日本に周防国多々良浜にたどり着き、時の摂政聖徳太子に謁見し、その地方の大内の地に居住することを許されたと言われています。琳聖太子は大内氏を名乗り、やがて中国地方の多くの国を支配する大名に成長しました。後々、大内氏は琳聖太子を祖神として、大明神の名を付して祀ったと言われています。



▲周防大明神像
明和8年(1771年)

戦国時代になって、第31代大内義隆の時、京文化を取り入れ隆盛となるも、家臣の謀反により自害。周防大内氏は滅亡となりますが、大内氏は近世になっても祖神である「周防大明神」を大切にしたいようです。

どのような経緯で、この「周防大明神」を信奉する人が合川地域に居たのかは不明です。願主の高桑市兵衛は上杉村の『歴代記』には確かに存在したが、江戸末期に絶家したと言います。

▽資料/文化財保護・文化遺産保存関係者作成の資料
▽紹介者/北秋田市文化財保護審議委員 照内捷二(故人)
※照内捷二氏は、市文化財保護審議委員として、平成20年5月1日号より長年にわたり、この欄に寄稿いただきましたが、今回が最後となりました。
ご厚恩に感謝し、謹んでご冥福をお祈りいたします。